

世界中の文字を消す



株式会社シード

「プラスチック字消し」の生みの親

鉛筆で書いた文字や絵を消すものと聞いて、思い浮かぶのはほぼ100%「消しゴム」だろう。しかし、業界では「消しゴム」という言葉は使わない。メーカーや業界団体は「字消し」としくは「プラスチック字消し」と読んでいる。昔は文字通り「ゴム」を用いて作られていたが、現在は「ポリ塩化ビニル」が主原料。消しゴムよりも字消し性能に優れたプラスチック字消しは、昭和34年にシードが開発。以後、市場の主流となっている。

「昭和29年に、軟質塩化ビニル樹脂を用いて、消す効果を高めることに成功し、その後、消す効果がより高い製品を求めて研究しました。そして、昭和34年に世界に先駆け『プラスチック字消し』を発売。ゴムで作る消しゴムは、完成までに1週間くらいかかりますが、塩化ビニルなら1日で作れます。早くできて、よく消える製品が生まれたのです」と西岡靖博社長。



丈夫でよく消え面白い

昭和43年に、丈夫でさらによく消える「Radar (レーダー)」ブランドを発売。パッケージは時代性を反映して少しずつ変化を加えているが、イメージは変えず今日に至るまで、字消しのトップブランドとして、子どもから大人にまで愛されている。

また、「きちんと使えて、字が消える」をモットーに、字消しで作った立体パズル「KESHIQ」や糸のように細長い「おもしろねりけしシリーズ」等、アイデアに富んだ字消しも次々に誕生。工場では、毎日60万個の字消しが生まれているという。

世界初の修正テープ 消費量は世界中で年間10億個

字消しを作り続けてきたシードだが、少子化やコンピューターの普及によるペーパーレス化等の波がやってくるにつれて、鉛筆で文字を書くことが減り、字消しの需要が下がることが予測された。そこで、字消しに続く製品はないかと考え、仕入商品として修正液を扱うが、後発の後発で全く売れず、在庫の山を眺めながら頭を抱えていた。新規性商品の必要性を痛感し、修正液の弱点を一から洗い出し、研究と開発を重ね、最終的にたどり着いたのが修正テープだ。「構想から製品化には5、6年費やしました」と西岡社長。昭和59年には特許を出願し、平成元年に世界初の修正テープを発売。現在では世界中で年間10億個以上が作られている。

「究極の字消し」誕生を目指す

今後の展開は、エコ素材を使った字消しの開発。北海道で大量に廃棄されるホタテ貝の貝殻を使った字消しがすでに商品化されている。

「紙を有効活用する『究極の字消し』も開発中です」と西岡社長は楽しそうに語った。リーディングカンパニーとして歴史と伝統を守りつつ、常にチャレンジしている同社。新たな「世界初」「業界初」の製品が、今後も生まれそうだ。

主な事業内容

プラスチック字消し、ゴム字消し、修正テープ、粘土、複合商品、その他の製造・販売等



西岡靖博さん
代表取締役社長

Company Profile

株式会社シード

住所 / 〒534-0013
大阪府大阪市都島区内代町3-5-25
設立 / 大正4年9月
資本金 / 4,000万円
従業員 / 80名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6951-5436
FAX / 06-6954-7851

ISO 9001
ISO 14001

全国
20

<http://www.seedr.co.jp/>